

埼玉県立自然の博物館報

第11号

平成28(2016)年度



Kobaton & Saitamatch

埼玉県立自然の博物館報 第11号

平成28年6月20日 発行

編集・発行 埼玉県立自然の博物館

〒369-1305 埼玉県秩父郡長瀬町大字長瀬 1417-1

TEL.0494-66-0404 (総務)・0407 (学芸)

FAX.0494-69-1002

E-mail t660404@pref.saitama.lg.jp

URL <http://www.shizen.spec.ed.jp/>



埼玉県立自然の博物館

国天然記念物 「古秩父湾堆積層群及び海棲哺乳類化石群」

約1500万年前に姿を消した古秩父湾。この海の記憶が刻まれた古秩父湾堆積層、海の証言者・古秩父湾海棲哺乳類化石群。古秩父湾の誕生から消滅までの環境を示す露頭6件と当館所蔵の哺乳類化石9件が平成28年3月、天然記念物に指定されました。日本初の堆積層と化石の複合指定天然記念物です。

史上初！ 哺乳類化石の天然記念物 古秩父湾海棲哺乳類化石群



パレオパラドキシア般若標本



パレオパラドキシア大野原標本



パレオパラドキシア寺尾標本



パレオパラドキシア栃谷標本



パレオパラドキシア三山標本



パレオパラドキシア皆野標本



チチブクジラ蓼沼標本



チチブクジラ大野原標本



オガノヒゲクジラ般若標本

秩父・長瀬と共に90年以上。
自然の博物館の歴史が地元に標本を残しました。

秩父鑛物植物標本陳列所
大正10年、上武鉄道(現在の秩父鉄道)が開設。秩父の岩石標本や木材見本などを展示していました。

秩父自然科学博物館
昭和24年戦争により荒廃した陳列所を立て直し開館。その際、奥秩父総合調査を行い、標本の拡充を行いました。

埼玉県立自然史博物館
昭和56年左記の2館の標本を受け継ぎ、県立館唯一の総合自然史博物館として開館しました。平成18年より自然の博物館となりました。

古秩父湾の記憶を今へ伝える 古秩父湾堆積層群

1 前原の不整合



約1億5000万年前の秩父帯の黒い粘板岩の上に、約1700万年前の古秩父湾堆積層の礫岩が重なっています。この粘板岩と礫岩の境界を不整合面といい、この礫岩の層を「基底礫岩」といいます。基底礫岩は、陸地だったところが水没し再び堆積が始まった証拠となります。まさに古秩父湾の誕生の地といえます。

2 犬木の不整合



もう1つの古秩父湾誕生の地といえる場所で、関東を代表する恐竜時代の地層である「山中層群」と秩父盆地層群白沙層が接する不整合が観察できます。近隣からパレオパラドキシアなどの化石も発掘されており、誕生間もない古秩父湾に多くの海棲哺乳類が進出していたことがわかります。

3 取方の大露頭



明瞭な縞模様は、砂泥を大量に含んだ濁り水(混濁流)によって、浅海から深海に運ばれ、堆積したもので、「タービタイト」とよばれます。この時代日本の広い範囲が海に覆われており、タービタイトは深海の証言者といえます。この地層は秩父盆地層群小鹿野町層といい、露頭上部には第四紀の段丘堆積物との斜交不整合が観察できます。

4 ようばけ



日の当たる(よう)崖(ばけ)という意味から「ようばけ」と呼ばれています。秩父盆地層群秩父町層がみられ、付近からは多くの化石が産出しています。

5 大野原パレオパラドキシア化石産地



1972年に発見され、1975年、1977年に発掘されたパレオパラドキシア大野原標本の産出地です。大野原標本は秩父初の、世界で2番目に発見されたパレオパラドキシア全身骨格です。頭から腰の骨がほぼ完全に保存されていました。付近からは、クジラなどの化石も多く見つっています。

6 新田橋の礫岩露頭



ここで見られる角のとがった角礫岩は、古秩父湾の終焉を示すものです。この角礫岩は、古秩父湾の東に断層運動によって陸域が形成された際、できた崖から供給されたもので、横瀬川のさらに上流には幅3mもある巨大な礫が見られる場所もあります。

古秩父湾 太古の海の物語

① 約1700万年前
日本列島が誕生してまもなく、関東山地を中心とした地域は1つの島をつっており、現在の秩父盆地の西縁まで海が広がっていました。パレオパラドキシア皆野標本、三山標本などが産出されています。

③ 約1550万年前
古秩父湾の東縁が隆起してくると、堆積物が湾の西と東の両方から供給されるようになります。再び浅海になった古秩父湾には、多くの海棲哺乳類が息をするようになりました。

② 約1600万年前
日本の広い範囲が沈降すると、浅海だった古秩父湾は深海になります。浅瀬から深海に運ばれた砂泥がはっきりとした縞模様の地層を堆積させました。ほとんど化石が見つからない時代です。

④ 約1500万年前
古秩父湾の東の陸域がさらに隆起すると、湾は閉じ込められ、古秩父湾は消滅し、海の生物もなくなってしまいます。この際に隆起した地域が現在の外秩父山地の原型となっています。